

L班:宿題 ～ホルモン受容体～

核内受容体について

- ・ リガンドが結合すると細胞質から核内へ移行して、転写調節因子としてはたらく。

核内受容体のリガンドは、輸送タンパク質に結合して血中や体液中を運搬され、標的細胞の中へは単独で入り、細胞質に存在する核内受容体に結合する。

- ・ リガンドの不明な核内受容体、リガンド結合とは別のしくみで活性が調節される核内受容体もある。

参考文献

Alberts B, Johnson A, Lewis J, Raff M.
Molecular Biology of the Cell, 5th Edition,
pp889-891, Garland Science, New York, 2008.

John T Moore, Jon L Collins, Kenneth H Pearce
The nuclear receptor superfamily and drug discovery.
ChemMedChem: 2006, 1(5);504-23 [PubMed:16892386]
[WorldCat.org] [DOI]